

CLOSE UP VOICE

株式会社 エデックリンセイシステム  
代表取締役 服部 友彦 さん

# 革新技術で 世界に驚きを!

画像検査装置や制御盤などの分野で高い技術が認められ、幅広い活躍をみせる「株式会社 エデックリンセイシステム」。2年ほど前から本格的にロボット事業に乗り出し、いま注目を集めています。同社が誇る技術力やロボット事業、人材教育などについて、色々とお話を伺いました。

確かな技術力と開発力で  
ロボット産業での躍進を目指す

—— 御社の事業内容を教えてください。

服部 ▶ 2003年、株式会社エデックと株式会社リンセイシステムが合併し、株式会社エデックリンセイシステムが誕生いたしました。これにより様々な歴史と技術が融合し、より幅広く、高品質な製品を提供することが可能となりました。また、知立市に

本社を構える株式会社FUJIIの傘下に入り、メインサプライヤーとしての機能も兼ねています。

事業としては、画像処理、ロボット、電子回路基板、制御盤に関する事業を展開し、画像処理機器や制御盤の設計・製造・販売、電子機器受託生産、ソフトウェアの受託開発・販売を手がけています。とりわけ「画像処理」は創業以来研究開発を続けており、気象衛星ひまわりや深海探査、自動車ナンバー自動読取装置などに

使用されるなど、専門性の高い分野で事業展開しております。近年では、画像処理技術を応用した「画像検査」の分野へ参入し、ナンバープレートの品質検査や注射針、工具などの品質検査に使用されています。

例えば、5年前に開発したNOZOC(ノゾック)シリーズは、ネーミングの通り、肉眼では検査できない部分を覗くことができる装置です。内視鏡のような器具で円筒形の部品内部を撮影し、異物や加工不良がないかを検査できます。自動車部品の生産現場では、穴を開ける加工が多いため、部品を破壊せずに中を確認したいというお客様からのご要望があり開発に至りました。今後はAIを併用した画像検査のニーズが高まると予想されますので、食品・医療品・化粧品など、いわゆる三品産業での展開も視野に入れた開発を進めています。

また、制御盤も創業以来続く事業ですが、FUJIIグループの傘下に入ってから、モーター制御や各種ソフトウェアの開発も手がけています。現在では、FUJIIグループの制御系を担う技術集団として各企業を支えています。

我々はこれらの実績ある技術を通してファクトリーオートメーションを提案し、多様な業種に対応して行きたいと考えています。

—— 競合他社と比べた貴社の強みや魅力は何ですか。

服部 ▶ 画像検査ではソフトウェア開発だけに止まらず、関連するハードウェアも自社開発している点が大きな強みになっています。具体的に申し上げますと、画像検査の際、大容量の画像を劣化させずにコンピュータへ高速移動させる必要があります。その要となるのが電子回路基板です。弊社では基板の設計から製造まで、非常に高い技術を持ち合わせていますので、高度な要望にも対応できます。実際に、5〜6年前にリリースした基板が人気で、大手企業でも採用され、毎年ユーザーが増えています。

弊社がいま最も注力しているのが、ロボットSー(システムインテグレーション)です。ロボットを導入して自動化したい作業があった場合、作業内容を分析して最適なロボットシステムを構築する必要があります。内容によっては特注の機器を開発しなければなりません。そのようなシーンにおいて、我々はロボットのプログラムや最適な機器を提案することができます。

もともとは、親会社の株式会社FUJIIで生産されているロボットアームの拡販の一助となれば、といった考えが事業のきっかけでした。しかし、それだけでは限られたお客様のみの対応となりますので、各社の口

INTERVIEW



株式会社  
エデックリンセイシステム  
豊橋市西幸町字浜池331-9  
0532-29-4133

—— 新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ情勢の影響はありますか。

服部 ▼我々には毎月もしくは毎日決められた製品を生産し、お客様へ供給する義務があります。そのため、工場では新型コロナウイルス感染症対策には細心の注意を払い予防を徹底しています。また、日々の営業活動も難しい対応があります。受託開発においては、お客様との綿密な打合せにより、一つひとつ合意しながら進行していく必要があります。しかしながら、リモート会議では意思疎通が完全ではありませんし、何より試作品を前に説明ができないため、非常に歯がゆい思いをする場面が多いです。

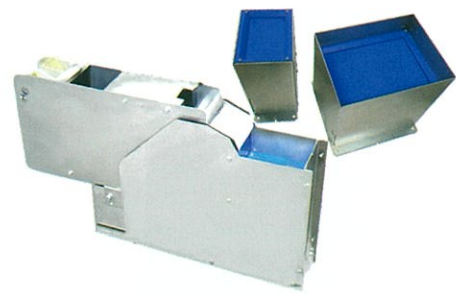
新型コロナウイルス感染症とウクライナ情勢によって最も影響を受けているのが部材の調達です。新型コロナウイルス感染症により海路

が、ウクライナ情勢により空路が寸断され、半導体・銅・鉄鋼・樹脂等の調達に深刻な影響が出ています。納期通りに部材が調達できず、グループ間で調達したり、協力することが増えています。今後も、原料の不足や高騰、エネルギー問題と先行きが不透明な部分が多く、ものづくりの現場には厳しい状況が長期的に続く予想されます。

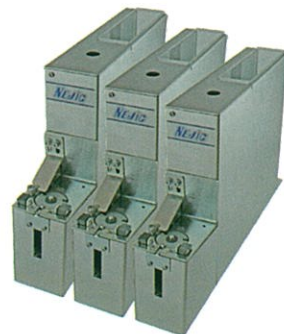
—— 将来像を教えてください。

服部 ▼弊社はB to B企業ですから、裏方の仕事が多く、地元でも知名度は高くはありません。今後はロボット事業等で自社製品を提供してブランド力を高め、広く豊橋市民にも弊社を知っていただきたいです。また、会社の規模に拘ることなく、新しい時代の働き方を実践し、社員全員が自立心を持って仕事に向き合うことで、量と質を高めていけるような取組みをしていきたいと思っています。ゆくゆくは、その取組みが社員一人ひとりの資産になり、それが会社の財産になっていくからです。今後も、社員が喜んで働ける環境づくりを推進しつつ、社員のエンゲージメントを大切にし、自分の会社を誇れるような企業を目指していきたいと考えています。

INDUSTRIAL PRODUCTS



バラ部品フィーダー BARACシリーズ  
バラ部品のロボットピッキングを実現する汎用フィーダー。ボールフィーダーに代わり、カメラとセットでバラ積み部品の供給を低価格で実現します。この1台で多種多様なワークに対応可能。



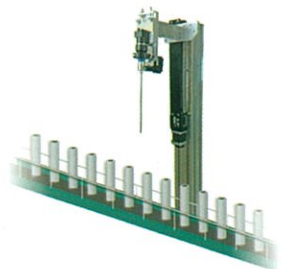
スリム型ネジフィーダー NEJICシリーズ  
投入されたネジ部品を1本ずつ切り出しロボットに供給するネジフィーダー。スリム幅のため、複数並べて狭い範囲に多種のネジを供給可能。最大40mmの長尺ネジに対応。



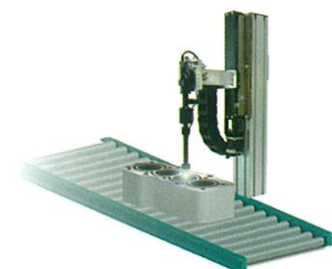
ピックアシストシステム  
ロボットで各種パーツをトレイに移動するシステム。アプリケーションにより、ロボット制御の知識がなくても簡単にピッキングパターンを作成・編集することができます。組み立てに必要なパーツを順番にトレイに並べることにより、作業効率アップ、組付けミス防止します。



画像入力ボード MUCap-HD4eH  
カメラからの画像をPCに取り込むための画像入力ボード。1スロットで1.5GB/sの高速転送や、4カメラ同時接続が可能。カメラインターフェースは業界標準のCamera Linkを採用。  
※CoaXPress I/F対応ボードも取扱っています。



円筒内面撮像装置 NOZOC-L(細径モデル)  
内径φ10~50の円筒内面ワークの内面を撮像し、キズ、巣、打痕などの欠陥を自動検出。目視では検査しづらい細径内面の品質保証、トレーサビリティ対応が可能。斜め下を撮像する機構のため、側面のキズだけでなく、上面や底面の欠陥も検出可能。



円筒内面撮像装置 NOZOC-L(標準モデル)  
内径φ35~150のワーク内面を撮像し、キズ、巣、打痕などの欠陥を自動検出。目視検査の置換えによる省人化や、トレーサビリティ対応が可能。金属の他、樹脂やガラス等、様々な素材に対応。

少子高齢化社会に対応して、省人化・自動化と言うカタチで  
より良い暮らしを実現し、社会に貢献できれば  
大変喜ばしいことだと感じています。

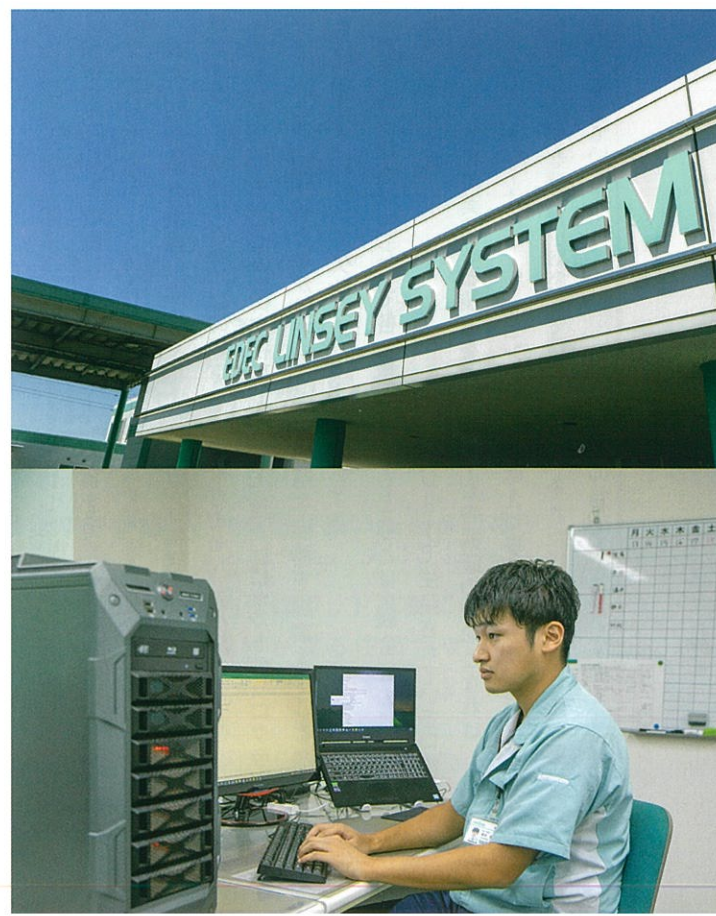
—— 人材育成に関連する取り組みは何かされていますか。

服部 ▼弊社では新入社員研修や資格取得支援など、充実した人材育成を行っています。

これを継続して行くことでお客様により高品質で安価なものを提供できるため、これもお客様第一に繋がっています。

これを向上するため、報奨制度を厚くし、年間を通して、優秀な改善策には表彰して謝意を伝えていきます。これまでに1日17〜18台ほど生産していた機器を、当初より少ない人員で1日50台生産可能となり、飛躍的な改善がなされた事例もありました。

成の制度がありますが、新たな取組みとして昨年から生産部門において「ものづくり塾」を設置しました。これは技術・技能の伝承や生産性の向上はもちろん、スタッフ一人ひとりの技能を一定以上にすることを、エデックリンセイシステムの標準を作る目的があります。詳しく説明しますと、一つの製品に対して作業時間と品質を定め、全員が時間内に完了できるようにします。例えば、ネジの締め方や締め具合も数字で測り、規定時間内に締められるような訓練です。また、故意に異なるネジやドライバーを使って、失敗を経験させることで作業への理解を深めています。



—— 経営理念と、そこに込めた想いを伺わせてください。

服部 ▼「Shake Your Heart 革新技術で世界に驚きを！」をコーポレートスローガンに掲げ、常に最先端技術を追い求め、満足を超えた驚きを与えるような製品を提供したいと考えています。技術は日々進歩していますから、ただトレンドを追うだけでは2番手3番手の企業となってしまいます。むしろ、我々がトレンドをつくるぐらいでなければなりません。さらには、他社が真似できない弊社しかできない製品を開発する必要もあります。

—— ものづくりに携わるうえで心がけていることは何ですか。

服部 ▼弊社では、企業人として取り組むべき、7つの習慣を定めた行動指針があります。お客様第一・真摯実直・改善改革・現地現物・当事者意識・チャレンジ・まごころの7つで、なかでも重要なのがお客様第一と改善改革です。どんな仕事でも、次の工程で、その製品を受け取る人、製品を使って仕事をする人の皆が満足できるように、という想いを常に念頭に置き、業務に取り組んでいます。

「改善改革」例えば、改善活動に終わりはなく、全社員が自発的かつ自主的に推進しなければなりません。近年、より社員のモチベーション

ボットにも対応できるように準備を進めています。これによりロボット産業の中にしっかりと根を下ろしてニーズを吸収し、株式会社FUJIEH フォードバックすることで、ロボット開発への一助となればと願っています。また、最先端のものづくりが集まる東三河にあつて、信頼を置いていただけるロボットのサプライヤーを目指したいと考えています。

弊社が抱えている課題とお客様が悩んでいる課題は似ていることが多いため、開発者がお客様目線で考えられるようになれば課題が共有でき、活路が見出されると考えています。

弊社の革新的な技術により、少子高齢化社会に対応して、省人化・自動化と言うカタチでより良い暮らしを実現することで、社会に貢献できれば大変喜ばしいことだと感じています。